

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 4月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2275690028
法人名	有限会社 ホスピタルサービス
事業所名	グループホーム 浜岡の家
所在地 (電話番号)	御前崎市池新田2104-1 (0537-65-0211)

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年 3月16日

## 【情報提供票より】(平成21年 2月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 7月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 11 人/ 非常勤 13 人/ 常勤換算	18.7 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り 3階建ての1階～3階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥36,000	その他の経費(月額)	¥9,000
敷 金			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
または1日当たり ¥1,000			

### (4) 利用者の概要(平成21年 2月17日現在)

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	11 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 69 歳	最高 92 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	奥村医院 ファミリークリニック歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは御前崎病院・御前崎総合福祉センターに隣接する3階建て3ユニットで閑静な住宅地にある。玄関に季節の花が、裏庭には畑があり利用者と一緒に育てた収穫物が食卓に登場する。館長はじめ職員は一人ひとりに即したサービス提供に努め、利用者・家族はホームと職員に全面的信頼の声が高い。施設なしをモットーに毎日、昼食前の外気浴をはじめ午後には利用者の希望に応じた外出・散歩が多い。常に満床で待機者もあり、地域の期待は大きい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の趣旨を理解し、評価結果にも真摯に向き合い改善すべき点について積極的に取り組んできた。特に地域及び地域住民との交流を深める取り組みを心がけているが今後も地域推進会議を中心に地域密着型のホームとして地域と共に向上することを期待したい。なお、ホームにとって大切な記録類をどのように残していくか、またその有効な活用方法を検討していくことが求められる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全ての職員が自己評価に取り組んだ。職員の意識向上と更なる利用者本意のサービス提供に積極的に取り組み、課題などの共有を図っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の趣旨を十分理解し、説明を重ねながら意見交換を行い、地域密着型ホームとしての透明性を確保した運営と利用者本意の更なるサービス提供に向け、有効に活用されるように期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者・家族が気軽に相談や意見が言えるような雰囲気づくりに努めている。家族との情報交換をする機会を設けたり、ホームの季刊紙などを利用して些細な思いや意向を把握し、それを運営に活かしていくような取り組みを期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元中学生の実習受け入れ、幼稚園児との触れ合い、夏祭りへの参加など積極的に地域行事に参加している。又日常では近隣住民と顔なじみになるよう散歩時に挨拶を積み重ねている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、ゆったりと楽しく その人らしい生活ができるようにとの具体的な理念を掲げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で理念の具体的な実践について、確認、検討し取り組んでいる。	○	みんなで掲げた分かりやすい理念を、家族・地域住民にも繰り返し伝える取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りなど地域行事に積極的に参加し、又ホームの行事に参加の声掛け等、地域との交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全ての職員で取り組んだ。館長を中心に自己評価結果・外部評価結果を話し合い、サービス改善に努めている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・家族を交えて2~3カ月に1回開催している。定期的な実施の取り組みとサービス向上に活かしていきたいと心がけている。	○	運営推進会議の意義を充分理解し、さらに自治会長・老人会などに呼びかけて地域関係者の協力が得られよう今後の働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じた連絡は行っているが、運営推進会議以外での市町村職員との意見交換はない。	○	介護保険の保険者として市町とは、定期的に意見交換する機会を設けるように働きかける等の取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への連絡は面会時、電話などで密に行い、金銭管理や利用者の状況報告など定期的に行っている。	○	ホーム便り(季刊号)作成を検討し、利用者の暮らしぶり等の報告を丁寧に行っていくことで、家族とのより良い協力関係を築かれない。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族から気軽に相談や意見が言えるような関係づくりを心がけている。苦情対応などはそのつど受けて、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職による利用者の弊害を十分に認識し異動は最小限に心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内規定の研修に取り組むと共に外部研修や講習会なども常に参加を促している。慣れない職員には館長が日常一緒にサポートして個別介護で研修している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に開設している他のホームや施設などの職員と交流する機会を持ち、又地域のケアマネージャーとの交流など積極的に参加してサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状態に合わせて生活上の作業と一緒にやりながら馴染みの関係をつくり、生活暦・趣味等が反映されるようなサービス提供を行うように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者ひとり一人を敬う姿勢を持ち、生活上の作業と一緒にを行い、又教わったり共に過ごせる関係が構築されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との日々のふれあいを大切にしており、家族のような親しみのある温かな会話がなされ、希望や意向の把握に努めている。共同生活の中でも一人ひとり充実した生活が出来るようにと個別の支援を目指している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一度の職員会議において、計画作成担当者を中心にモニタリングを行い、利用者や家族の要望も取り入れながら一人ひとりがより良く暮らす為の課題やケアのあり方を介護計画に盛り込んでいる。それを再度、介護支援専門員に見直してもらい作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に一度見直しを行っている。利用者の状態に変化がある場合には、職員間で話し合い利用者主体の新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて外泊や外出、外食などにも出かけている。また、病院、提携医への受診の支援、送迎、また、早期退院の支援も行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が近いということもあり、常に連携が取れている。利用者、職員、医療機関との情報交換や指示説明は常に行われており職員は情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとしての方針は作成されていないが、かかりつけ医との連携も良く、家族との話し合いも繰り返し行われ、重度化した場合や終末期についての対応を職員会議で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者と共に行動したり話したり家族のように自然体で接している。一人ひとりの人格を尊重し、礼儀を持って接するよう心がけており、誇りやプライバシーを損ねる対応は見られない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、自由にその人らしい生活が出来るよう、その人らしさを引き出す支援を目指して、個別ケアを大切にしている。職員と共に、利用者同士が車椅子を押し合ったり食事介助をしたり互いに仲の良い関わりも見られ、家族的な関係のある生活がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者達は一人ひとりの能力に応じて食事の下ごしらえや盛り付け、後片付け、洗いなど職員と一緒に楽しそうに携わっていた。また、食材を購入しに出かけたり、外食も楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は、利用者が入浴を楽しめるよう、時間、回数、長さなどにも配慮し支援している。時には就寝前、朝風呂などの要望にも応じている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は個別ケアをめざしており、一人ひとりの持てる力や楽しみを把握する努力をしている。自分の部屋の掃除、食事の準備、片付け、畑作業などの支援、また、お酒のつまみや3時のおやつのお買い物の支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は積極的に取り組み支援している。天気の良い日は毎日散歩、利用者の状態に応じてはホーム前の広場にての外気浴が日常的に行われている。また、地域の行事にも参加、見学したり、ドライブにも出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が家庭と同じように自由な暮らしをする為には鍵をかけないことが当たり前 というホームの方針の下、日中は玄関の鍵をかけずに職員の見守りで、安全面に配慮しながら取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員をきめてあり定期的な防災訓練を実施している。年に1度消防署の協力を得て実施訓練を行っている。	○	防災訓練は実施されているが、記録については不足部分があるので、訓練を確かなものにする為にも反省を含め記録されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表にて食事量、水分量、排便などを把握し、一人ひとりの健康状態に応じて支援している。また、食材提供先より、栄養摂取量、バランスなどについて、情報を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には花や盆栽、そして、ベンチが置かれ、毎日の散歩の待合所ともなっており、日向ぼっこしながら和やかなふれあいの場所となっている。各フロアには、季節をあらわす背景の中に一人ひとり笑顔の溢れる幸せそうな写真が、飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にはできるだけ自分の部屋という自覚を持たせるような支援をしている。利用者の生活、生き方など窺い知ることの出来るそれぞれの居室であり、自分の部屋を見てほしいという積極的な利用者も見られた。		